

動悸を問う

望聞問切から処方へ

臨床 § 症候

峯 尚志

動悸101例に対する西洋治療と漢方治療の現状と有用性

山崎武俊、福岡正平、峯尚志

日東医誌 Kmpo Med vol.74No2,121-129,2023



図1 西洋医学（心臓内科）疾患の割合

西洋医学的診断加療が必要な病態を見逃さないことが最重要

表1 西洋医学疾患の種類

診断	漢方単独（K群）	東西併用（KW群）	西洋単独（W群）	計	西洋医学/治療適応
心室期外収縮	7	1	7	15	4
散発性	(7)	(1)	(3)	(11)	(0)
頻発性	(0)	(0)	(4)	(4)	(4)
上室期外収縮	6	5	0	11	0
発作性心房細動	1	5	7	13	13
発作性上室頻拍症	0	0	3	3	3
高血圧	0	2	0	2	2
冠攣縮性狭心症	0	1	0	1	1
甲状腺機能亢進症	0	0	1	1	1
慢性心不全疑い	0	1	0	1	1
永続性心房細動	0	1	0	1	1
神経循環無力症確定	16	1	0	17	0
神経循環無力症疑い	32	3	1	36	0
	62	20	19	101	26

表6 心悸亢進の漢方治療

	方剤	使用目標	処方数
1	炙甘草湯	脈の結滞と心悸亢進。	4
2	柴胡加竜骨牡蛎湯	上腹部から胸部にかけて膨満。物に驚きやすく神経過敏。臍部で動悸が亢進。	4(1)
3	半夏厚朴湯	発作性にくる心悸亢進症。不安感。用意周到な性格。みずおちが膨隆して抵抗のあるもの。	30 (9)
4	桂枝甘草竜骨牡蛎湯 桂枝甘草湯	心悸亢進の甚だしい時の頓服。(桂枝加竜骨牡蛎湯で代用)	11(4)
5	苓桂甘棗湯	奔豚。ヒステリー性の心臓神経症。(苓桂朮甘湯+甘麦大棗湯)	2
6	苓桂朮甘湯・鍼砂湯	動悸、利尿減少、めまい、心下部の振水音。(苓桂朮甘湯)	8(4)
7	茯苓甘草湯・五苓散	心悸亢進、多汗、利尿減少。(五苓散)	0
8	柴胡姜桂湯	柴胡加竜骨牡蛎湯証の虚証。	7
9	抑肝散加陳皮半夏	臍の左側から、みずおちにかけて動悸が亢進。気分が鬱ぎがち。	0
10	連珠飲	甚だしい貧血、動悸、めまい、耳鳴。(苓桂朮甘湯+四物湯)	1
11	桂枝去芍薬 加蜀漆竜骨牡蠣救逆湯	ストーブに酔って動悸。	—
12	黄連解毒湯	酒の酔っての動悸。	0
13	小建中湯	からだの弱い人のかぜの動悸。	6

山崎先生の頻用処方

- 半夏厚朴湯 30
- 桂枝加竜骨牡蠣湯 11
- 苓桂朮甘湯 8
- 小建中湯 6
- 柴胡桂枝乾姜湯 7
- 柴胡加竜骨牡蠣湯 4
- 炙甘草湯 4
- 苓桂甘棗湯 2

半夏厚朴湯以外にはすべて桂枝（甘草）が入っている

- 例外は柴胡加竜骨牡蠣湯だが
- 大黄入りの柴胡加竜骨牡蠣湯は大柴胡をベースとしているため、小柴胡湯をベースとするなら甘草入ってもおかしくない。
- そう考えると半夏厚朴湯以外の処方には
- すべて桂枝甘草湯が入っていることになる。

心悸の中医弁証

驚悸、怔忡、動悸、心悸亢進



心について

- 君主の官
- 心は君主の官で五臓の内の王様
- 西洋医学の心臓の機能としての循環の原動力としてのポンプ役。、同時に意識や精神活動、つまり西洋医学で言えば、脳の働きに関係する部分も「心」の働きとしてとらえることが出来る。間接的に心は睡眠の仕組みとも関係する。「心血」は、心が安まる状態を指し、「心血虚」となると、心血不足から不安感が強まり、不眠、浅眠、多夢となる。心血虚の代表的エキス剤には、加味帰脾湯などがある。



心悸の病因弁証

- 心気虚
- 心陽虚
- 心血虚
- 心陰虚
- 驚恐擾心
- 心血瘀阻
- 痰火擾心
- 水気凌心
- 氣鬱憂心（峯造語）
- 肝陽上亢
- 心腎不交



心気虚と心陽虚

病因：老化による消耗、発汗過多、下痢による消耗

共通症状：動悸、息切れ、自汗、運動や疲労で悪化

心気虚：疲れやすい、顔青白い、舌苔白、胖大、嫩、脈虚

治法：養心益気、安神定志

方剤：養心湯

養心湯：人参・黄耆・当帰・茯神・茯苓・柏子仁・遠志・半夏・桂皮
3.0;

炙甘草・川芎2.0;酸棗仁4.0;五味子1.5;生姜1.0

心陽虚：寒がり、四肢の冷え、胸がつまって苦しい、顔面蒼白、舌が淡あるいは紫暗、脈微弱あるいは結滞

治法：温補心陽

方剤：桂枝甘草竜骨牡蠣湯、桂枝加朮附湯、八味丸、桂枝人参湯、附子理中湯（桂枝、乾姜、附子）（胸苦：駆瘀血薬を使うことあり）

心気虚は心のエネルギー不足であるが、メンタルのエネルギー不足として健忘、不眠、ボーとする、考えがまとまらないという症候を来すことが多い。これらの症候は血虚証とも関連が深く、人参、黄耆とともに当帰、竜眼肉などの補血薬を併用する。またエネルギー不足であるから冷えを伴うこともあり、心陽虚と呼ばれる。このように、心気虚、心血虚、心陽虚は併存しうる病態で連続性をもって捉えることが重要である。

心気を補う

人参、黄耆、炙甘草で補気するが、必ず心気を鼓舞する桂枝を加える。

心気虚：疲れやすい、顔青白い、舌苔白、胖大、嫩、脈虚

治法：養心益気、安神定志

方剤：養心湯（補気といいながら補血もしている）、人参養栄湯

養心湯：桂枝、炙甘草、茯苓、人参、黄耆、半夏、生姜、茯神、茯苓

当帰、川芎、遠志、酸棗仁、柏子仁、五味子（帰経：肺、心、腎、心気を補う）

心陽虚：寒がり、四肢の冷え、胸がつまって苦しい、顔面蒼白、舌が淡あるいは紫暗、脈微弱あるいは結滞

治法：温補心陽

方剤：桂枝甘草竜骨牡蠣湯、養心湯、炙甘草湯

心血虚と心陰虚

病因：陰血化源の不足（脾虚）、出血、思慮過多による心陰の消耗

共通症状：動悸、**焦燥感**、**驚きやすい**、不眠、健忘

心血虚

顔につやがない、めまい、ぼー、爪色淡白、舌淡、脈細弱

治法：養心益血、安神定志

方剤：**帰脾湯**、河車大造丸

心陰虚

微熱、盗汗、五心煩熱、口乾、舌紅、乾燥、脈細数

治法：滋陰降火、寧心安神

方剤：定心湯、補元益

心血虚と心陰虚の処方



定心湯

竜眼肉、酸棗仁、山茱萸、柏子
仁、竜骨、牡蠣、乳香、没薬



河車大造丸

(滋陰清熱補腎、補肺)

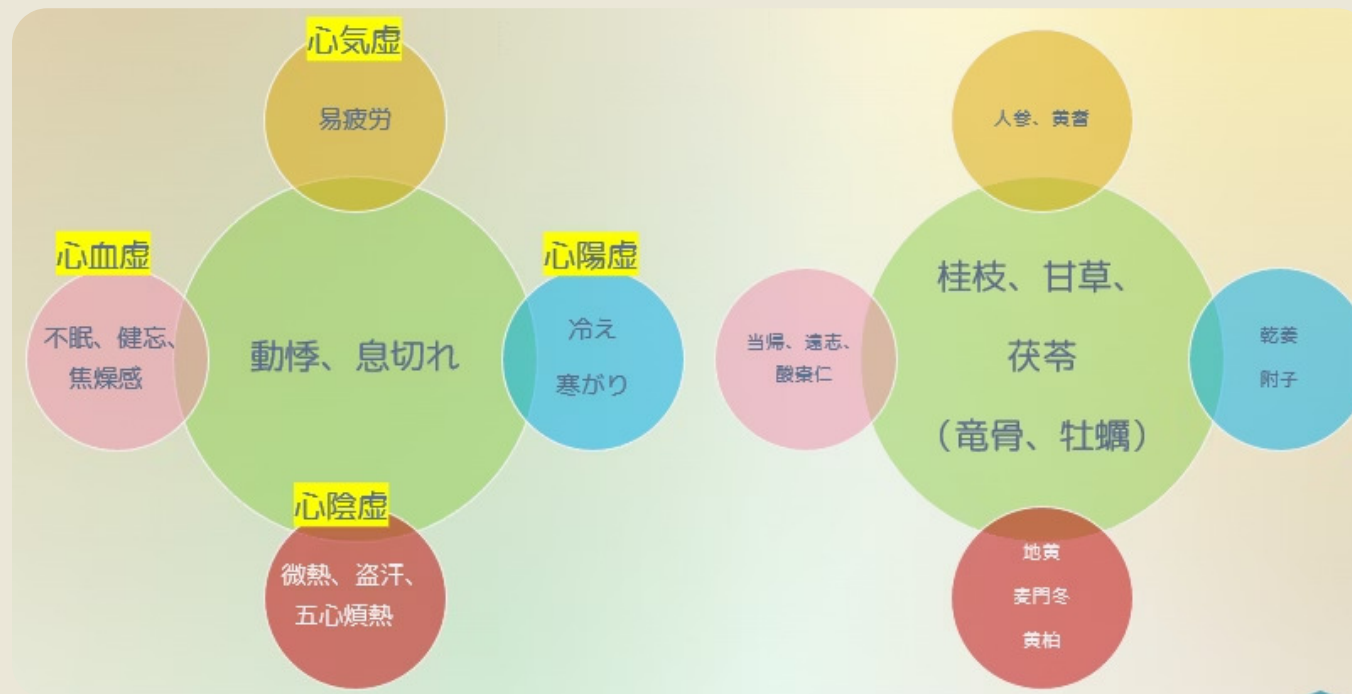
紫河車、熟地黄、天門冬、杜仲、
龜板、牛膝、黄柏

安神定志丸 (不眠、動悸)

茯苓、茯神、人參、遠志、石菖
蒲、竜齒

わかったようでわからない中医弁証をまとめてみる

心気虚、心陽虚、心血虚、心陰虚



その他の弁証

心血瘀阻

病因：心気虚、心陽虚による血行無力、内傷七情、労損、寒邪で血脈が凝滞しておこる。

症状：動悸に胸脇部の刺すような疼痛や苦悶感、痛みが上肢内側（特に左）に放散し、疼痛は激しく間欠的、顔、口唇青紫、四肢の冷え、舌暗紅、瘀点、舌苔少、脈微細、澁。

治法：行気活血、化瘀通絡

方剤：血府逐瘀湯

当帰、赤芍、川芎、地黄、桃仁、紅花、甘草、柴胡、枳実、桔梗

冠心II号：丹参、赤芍、川芎、紅花、降香

驚恐擾心と痰火擾心

驚恐擾心

擾：ジョウ：みだれる

病因：突然の驚きや恐怖により発症

治法：鎮驚安神、補心扶虚

方剤：桂枝去芍薬加蜀漆竜骨牡蛎救逆湯

痰火擾心

病因：肝郁化火、六淫の内鬱化火、辛辣の過食、温補薬の飲みすぎなどで痰火が発生して心を阻害する。

症状：焦燥感、イライラ、不眠、口や舌のびらん、舌のこわばり、舌質紅、舌苔膩、脈滑数

治法：清熱化痰、寧心安神

方剤：温胆湯 陳皮、半夏、甘草、茯苓、竹茹、枳実、加味定志飲

水気凌心

病因：心陽虚による水飲

1. 心陽虚＋脾肺気虚で、液を散布できずに飲を生じたもの。

症状：心下逆満、気上衝胸、動悸、息切れ、めまい、胸苦、咳嗽、白色の薄い痰、舌苔水滑、脈沈弦

主治：水飲、脾陽不足

治法：温陽化飲

方剤：苓桂朮甘湯加減

2. 心陽虚＋腎陽虚で、下焦の寒水が上泛（はん）するもの

症状：動悸、めまい、尿量減少、筋肉ピクピク、肩こり、腹痛下痢、四肢浮腫、脈沈、舌淡、舌苔白滑

治法：温陽散寒、利水消腫

方剤：真武湯加減

水腫（水滯）

病因：体内の水液代謝異常によって生じる浮腫

分類：表水、裏水

1. 表水（陽水）

症状：浮腫が顔面から始まる、小便不利、体表の浮腫

治法：発汗解表、利水消腫

方剤：麻黄附子細辛湯、越婢加朮湯

2. 裏水（陰水）

症状：浮腫が下肢から始まる、腹部膨満、小便不利

治法：温陽化気、利水消腫

方剤：五苓散、真武湯

処方で弁証論治を問う

動悸の基本処方

苓桂朮甘湯

組成：桂枝、炙甘草、茯苓、白朮

動悸を治す 桂枝、甘草、茯苓の基本の生薬を含む
白朮があることから脾の機能を高め、温陽利水する処方。

脾陽を高めると肺陽も活性化し肺の宣発利水の作用も高まる。
桂枝は引火帰原で腎陽も鼓舞するから、心、肺、脾、腎のめぐりが良くなり、体内の縦方向の水の流れが改善する。交感神経系の過緊張を改善し、自律神経を整える。

心気虚

養心湯

桂枝、炙甘草、茯苓、人参、黄耆、半夏、生姜、
茯神
当帰、川芎、遠志、酸棗仁、柏子仁、
五味子 (帰経：肺、心、腎、心気を補い、動悸、不眠を治す)

心気虚といっても気虚が長引くと血虚を生じ養心湯は補気だけでなく補血の生薬も豊富で気血両虚を補う処方となっている

心気血両虚

すなわち心気虚は心血虚を伴うことが多い
胃腸が弱く思い悩みがちで動悸、不安のある人

帰脾湯 心脾両虚（脾気虚＋心血虚）

人參、黄耆、甘草、白朮、茯苓、大棗、木香、当歸、遠志、酸棗仁、竜眼肉

補気：人參、甘草、白朮、大棗、黄耆

補血：当歸

養心安神：遠志、酸棗仁、竜眼肉

去濁：木香

養心湯とさほど変わらない。桂枝がなく補脾の生薬が含まれる
随って心脾両虚の処方といわれる。

養心湯（桂枝、炙甘草、茯苓、人參、黄耆、半夏、生姜、茯神、当歸、川芎、遠志、酸棗仁、柏子仁、五味子）

養心安神：遠志、酸棗仁、竜眼肉

化痰

遠志：ヒメハギの根

性味：苦、辛、温

帰経：心腎肺

効能：安神益智、痰開竅、散鬱
化痰

補血

酸棗仁：ナツメの種子

性味：甘、酸、平

帰経：心、肝、胆、脾

効能：補肝寧神

補血

竜眼肉：リュウガンの果実

性味：甘、平

帰経：心、脾

効能：養心血、安神、補脾気

安神薬



※夜交藤はツルドクダミの茎
合歡皮はネムノキの樹皮
小麦は小麦の種子

痰阻心迷による健忘、痴呆



遠志 菖蒲 鬱金 茯苓

散鬱化痰



遠志 半夏 陳皮 杏仁 紫菀

腎精虚/心腎不交/陰陽兩虚

桂枝加竜骨牡蠣湯

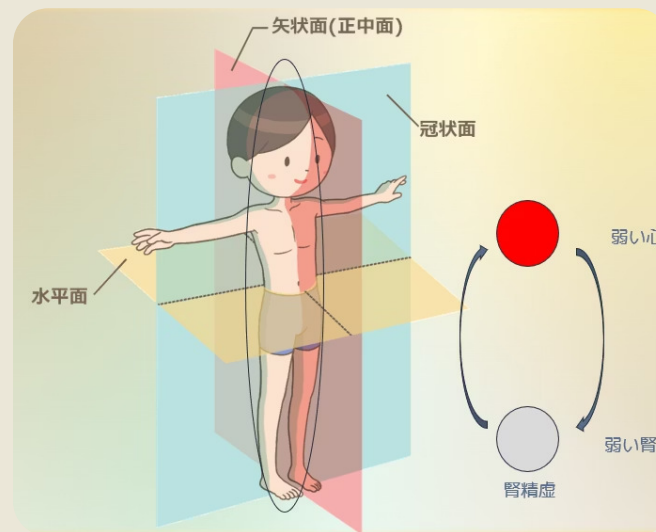
処方構成：桂枝、芍薬、甘草、生姜、大棗、竜骨、牡蠣

効能：調和営衛陰陽、斂精潜陽

主治：陰陽兩虚、心腎不交の失精、夢精

病機：虚勞のため、陰（精）陽（気）がともに虚し、陰が虚して陽を滋養できないため、虚陽が上浮し、陽が虚して陰液を守り固めることができなくて動悸、不眠、多夢、夢交、陰部の冷え、めまい、摂血ができないため、不正出血をおこすこともある。脱毛、脈が芤になることもある。

重鎮固渋の竜骨牡蠣で潜陽入陰させて心腎を交通させ、陽固、陰守の効果をあげる。





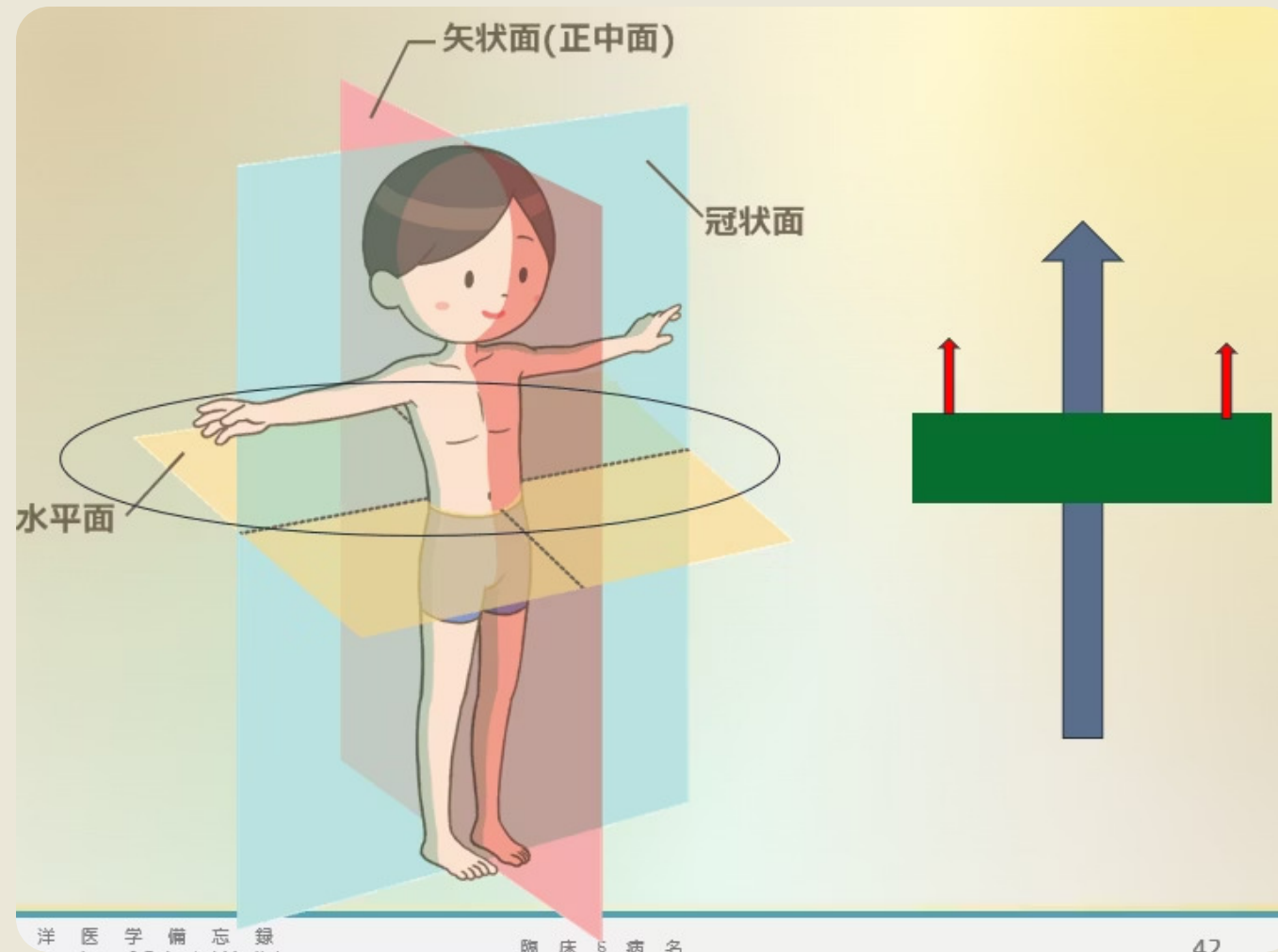
桂枝加竜骨牡蠣湯証の患者さんは心も腎も弱い
(腎精虚) 心を支える腎の力が弱いため陽気が
ふわーと上に上がってゆく本来なら補腎の生薬
を用いるべきであるが潜陽の竜骨牡蠣の収斂作
用で腎精の漏れを防ぎ安神作用で心陽がふわふ
わと登ってゆくのを防ぐ絶妙のバランスだけで
陰陽を調和させる処方

今度は肝気鬱結により肝胃不和で脾胃の働きが
虚し肝陽上亢になり心気が虚し不安から動悸が
して心気が登り、心腎不交となって腎気も虚し
不眠やインポテンツの症状があらわれる

柴胡加竜骨牡蠣湯

処方構成：柴胡、黄芩、人参、半夏、生姜、大棗、桂枝、茯苓、竜骨、牡蠣、大黄、鉛丹

病機：内傷七情で肝郁化火して脾を障害し、痰が生じて少陽、厥陰の枢機を阻滞したために生じる不眠、動悸、めまい、情緒不安、遺精、インポテンツなどに適応する。

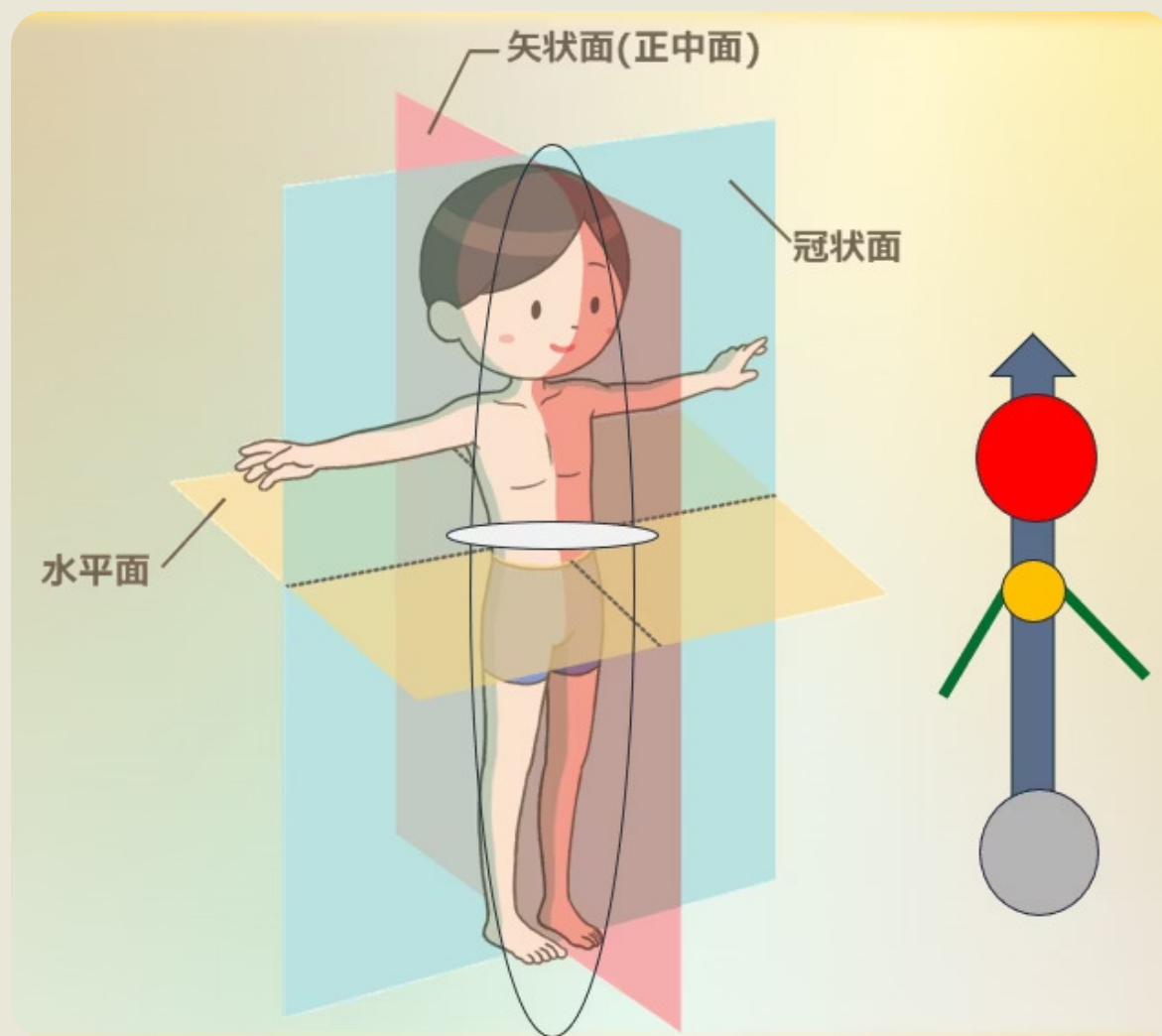


より繊細で心も腎も虚弱な人が日常の繰り返すストレスで肝気鬱結が生じ肝脾不和から痰が鳩尾にたまり鳩尾が固まって心腎の交流を邪魔をして不安や動悸の症状を呈した者

柴胡桂枝乾姜湯

柴胡、黄芩、桂枝、甘草、乾姜、栝楼根、牡蛎

- 柴胡—黄芩 和解少陽、清熱疏肝
- 桂枝—甘草 治心悸
- 桂枝—甘草—牡蛎 降氣潛陽
- 栝楼根—牡蛎 清熱化痰潤燥、寬胸降氣
- 甘草—乾姜 裏寒→溫肺脾
- 桂皮—乾姜 溫腎補命門火 引火歸原



気虚・陰陽両虚による動悸・不整脈

今度はちゃんと補気、補陰の生薬を加える

炙甘草湯

処方構成：桂皮3、炙甘草3、人参3、生姜1、地黄6、麦門冬6、大棗3、麻子仁3、阿膠2

効能：益気滋陰、通陽復脈

主治：

1.心陰陽両虚

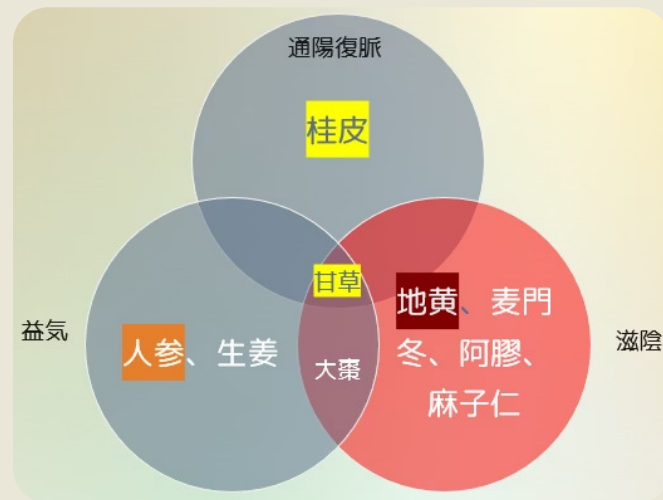
脈の結代、動悸、息切れ、焦燥感、不眠、不安、便秘

2.肺気陰両虚

乾咳、無痰、血痰、羸瘦、息切れ、自汗、盗汗、咽乾、便秘、発熱、舌質淡、少苔

方意：炙甘草、人参、大棗で益気養心、生津、地黄、麦門冬、阿膠で陰血を滋養、桂枝、生姜、酒で温陽通脈。

益気滋陰、通陽復脈



補陰のみで動悸を治す処方

加減復脈湯

処方構成：炙甘草、地黄、芍薬、麦門冬、阿膠、麻子仁

効能：滋陰清熱

主治：肝腎傷陰

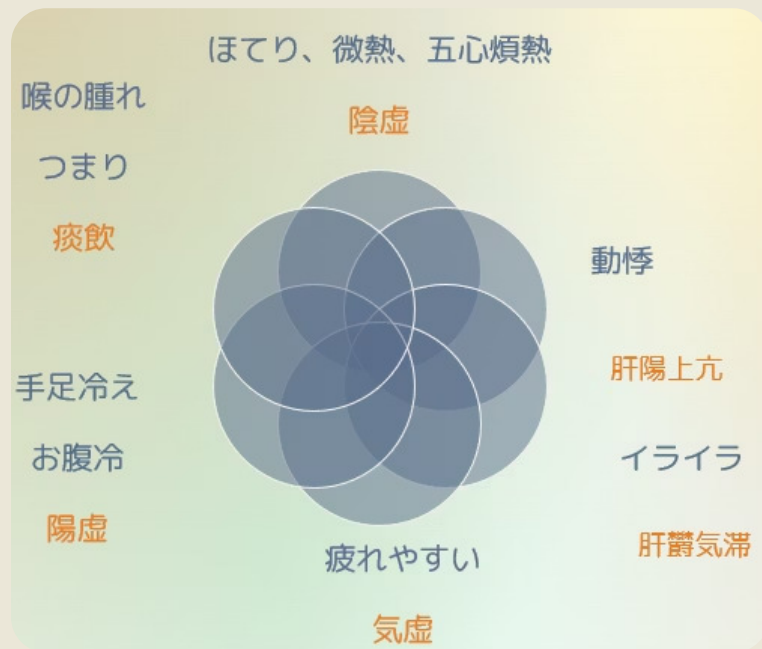
手のひらと足の裏のほてり、口乾、動悸、元気がない、うとうとする。

もうろう状態、聴力減退、舌のこわばり、舌質紅、少苔、脈虚大あるいは遅で結代

心悸のみが共通の症状としてあらわれる
複雑な弁証を選択すべき病態

動悸を主訴とする甲状腺機能亢進症

甲状腺機能亢進症の症状と弁証



甲状腺機能亢進症の基本処方

消瘰丸

玄参・牡蛎・貝母各12

海藻玉壺湯

海藻、昆布、陳皮、半夏、貝母、連翹、当帰、川芎、独活、甘草、
海帯（乾燥させた根昆布）

海藻、昆布はヨウ素によって甲状腺機能を低下に導く

まとめ

- 動悸については、器質的異常があるか、西洋医学的診断治療が必要かどうかを見極めることが重要
- 動悸の漢方治療の基本処方桂枝甘草湯
- それを元に気虚、陽虚、血虚、陰虚、驚恐擾心、痰火擾心、心血瘀阻、水気凌心などの弁証を加えてゆく
- 瘀血が関与する場合は、冠心二号、血府逐瘀湯
- しかし、器質的異常のない疾患の動悸は気鬱が主な原因であることが多く、半夏厚朴湯の適応が極めて多い。
- 気血両虚で不安、健忘、動悸がある場合、帰脾湯の適応を考える
- 肝気鬱結がある場合は柴胡剤の適応を考える。
- 陰陽両虚の動悸や不整脈に対しては炙甘草湯などの補陰の処方が必要となる